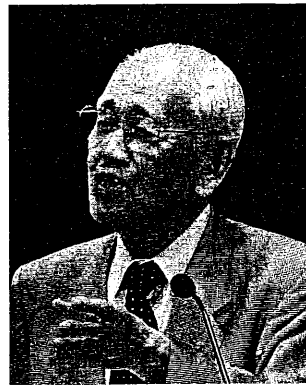


青少年問題について

元RI理事・パストガバナー
今井 鎮 雄
 (神戸西)



橋本ガバナーエレクトから、地区協議会で青少年に関する問題を提示するようにとご依頼があった際、題は「青少年問題について」でいいですかと聞いて下さいました。おそらく最近の青少年を取り巻く環境の変化について、このような題でよいのかとのお尋ねであったと思います。少し考えて、結構ですと申し上げました。

「青少年問題」という言葉は、第二次大戦後、外地から多くの日本人が引き揚げてきて食糧が不足した苦しい時代に、心ならずも青少年たちが起こした社会問題を称して呼ぶことから始まりました。なぜ青少年が問題を起こすのかと、行政は青少年対策室などを設けましたが、青少年団体に加入したり新たな健全な道を模索している青少年たちからは、なぜ私たちが対策の対象になるのかと抗議の声も上がり、対策という言葉は外されました。

兵庫県では金井知事の時代に青少年本部が設けられ、行政と青少年団体が協力して青少年のための活動や育成プログラムを行うようになったという課程があります。昨年、県は兵庫県青少年問題協議会を解散、青少年愛護審議会と統合し、組織を「青少年愛護審議会」として発展させました。また、神戸市は昨年後期に青少年問題協議会を「青少年健全育成協議会」とあらためています。

国際ロータリーは、青少年の育成は次の世代を担う人々を育てることであり、人間社会のもっとも大切な課題であるとの観点から青少年奉仕委員会を長く続けてきましたが、1995年、この委員会を新世代委員会と改めました。新世代とは、次に続く人々若い人から幼児に至るまで一に健やかに育ててほしいとの思いを込めた奉仕の目標ですが、それには具体的に時代の変化が反映されます。青少年育成にはいくつかのグループ、例えばIA、RA、RYLAあるいは青少年交換がありますが、そのガイダンスにしたがって各クラブは奉仕をされていると思います。

また国際ロータリーは、世界の子どもたちが次世代の地球の後継者として育ってくれるようにと願い、応援しています。開発途上国の子どもたちへは貧困と飢餓、健康、教育問題への取り組み等々がありますが、なかでも地球上からポリオを根絶して子どもたちを守ろうとする運動は20数年にわたって続けられています。現在ではインド・アフガニスタン・パキスタンの一部とアフリカの一部の地域を残すのみとなりましたが、最後の追いこみのために全世界のロータリアンが努力を傾けていることはご承知のとおりです。

日本では多くの人が少子高齢化が進みつつあることに危惧の念を抱いています。団塊の世代が親となる頃には少子化現象に歯止めがかかるのではという期待は打ち砕かれ、親になるべき世代の人口が増えても少子化は進み、それとともに子どもを育てる家庭がその機能を次第に失って、マスコミにしばしばとりあげられるように児童虐待などのケースが増加しています。あるいは安全と考えられていた学校や通学路でさえ、幼い子どもたちの生命が脅かされるケースが増えました。これまで考えられなかったような子どもたちを取り巻く問題が、いまクローズアップされています。

先日、神戸東ロータリークラブ創立50周年のお祝いの会に出させていただきました。クラブ活動の紹介で、俳句の会の優秀な作品が披露されましたが、着物を着て桃の節句を迎えるお孫さんがまるでお雛様のような「…孫も雛」の句に共感を覚えました。人間は生まれたときには全てを受け入れる純真さとやさしさを持ち、親を中心とする周囲の人々から限らない愛情を受けて育つことによって人格が形成されるといわれます。子どもの成長には豊かな心の環境が大切であるにも関わらず、子どもたちを取り巻く環境の変化が、彼等を育てる上で様々な課題を生み出しているのは悲しいことです。

子どもを育てるのは私たちであり、社会です。その社会すなわち子どもを取り巻く人々がどの方向へ歩むのかという文化(価値の体系)の中で、子どもの人格は創られます。子どもたちの周囲の危機的な状況は、社会すなわち私たち大人が責任を持つべき文化(価値の体系)が結果として招いたことを、今痛切に感じています。

日本の福祉体系が、年金問題をはじめ大きく揺らいでいることはご存知のとおりです。このような現象の中で、ある識者は「国家の財政問題を越えて、国家はもう一度福祉国家を目指すべきだ。なぜなら一番基底となる家族が持つ機能が衰退し、次世代を担う子どもたちを人間として育てる基盤が失われたとき、それは社会や会社、その他の集団が肩代わりすることのできない問題であり、国家はいまこそ人間の成長にあわせてその機能をあらためるべきである。それこそが新たな意味での福祉国家の概念である」とおっしゃっています。

新世代育成を大切な奉仕の対象と考えるロータリーは、このような時代に何をすればよいのでしょうか。今日は詳しくお話する時間がないので、ヒントとして兵庫県の青少年育成に対する取り組みの一覧と「ひょうご青少年憲章」をお配りしました。20年ほど前に制定された兵庫県青少年憲章には、子どもたちに守ってほしい項目を、挨拶をしましよとか具体的に挙げていました。やがてこれだけでは十分ではないと、新しく「ひょうご青少年憲章」が制定されました。子どもも大人ももっと基本的なことを考えてほしいとの観点から、やや抽象的ですが新しい地域を作るうえで基本的な指標となるものを掲げています。青少年育成の

指針としては、子どもたちを導いてくれるリーダーの養成、子どもたちが遊ぶことのできる広場や居場所づくり、あるいは生きていく意味や価値を発見したり、新しいことを考え創造性を発揮できるようなプログラム等があります。この表をご覧ください、皆さんのクラブとクラブのある地域の中で、ロータリークラブとしてどのようなプログラムに奉仕するのが効果的かをお考えいただければありがたいと思います。

去る3月末のRYLAセミナーに出席しましたが、多くのロータリアンや若い青年たちが参加して下さいました。最後の日、参加者に感想を求めたところ、大学の先生の講義が素晴らしかった、ヨットやレクリエーションが楽しかった、よい友人と出会えたという評価の後で、「社会的な要職にある方、社長とか専務という方々が3泊4日のセミナーに参加し、最初から最後まで私たちと寝食を共にして下さいました。一緒に話し合い、討論をして下さった方々の4日間のあり方に、もっとも感銘を受けた」とありました。新世代育成のために大切なことは、私たちが時間を捧げ、労力を捧げ、智慧を捧げて行う行動の中にあり、それこそがもっともよき奉仕の業であることを感じました。

新世代委員会の皆さんの働きを中心に、皆さんの地域により種が播かれますように(Sow the Seed of Love)、そのために皆さんが手を貸して下さいますよう(Lend a Hand)お願いします。それこそが真にロータリーを祝うこと(Celebrate Rotary)につながると思います。

